

調査団体名	栗くり工房	団体代表者名	栗谷本征二
設立年	1996年	団体URL	http://www.takenet.or.jp/~kurikuri/
活動地域	中津川市・恵那山	調査員	杉野
取材日	2009/12/2	レポート作成者	杉野賢治
アートで山の恵みを伝える。全ては自然への感謝から始まる			
<p><活動内容></p> <p>1)ネイチャーガイド:栗谷本氏の地元は、恵那山の麓。豊かな天然林をフィールドに10年以上、ネイチャーガイドを続けている。</p> <p>2)クラフト教室:栗くり工房で月に7回ほどクラフト・園芸教室を行う。</p> <p>3)花育</p> <p>4)森の恵み塾:花フェスタ公園にて開催。</p> <p>5)企業との里山づくり:下流域(名古屋圏)の企業との提携により、中津川地区里山整備を行う。</p> <p>6)自然保護:クラフトの材料採り、仕事(園芸関係)の全てで自然を守る活動をしている。</p>			
<p><会のモットー(何を大切にしているか)></p> <p>自然の恵みを伝える。大人も子どもも、森の恵みに対して謙虚になること。</p>			
<p><設立から現在に至るまでに変化したこと></p> <p>受講生自身が変化している。クラフト教室はリピーターが多く、自閉症気味だった小学生が、来るたびに变化していった。自然の恵みが受講生の心を変化させている。</p>			
<p><連携している団体・専門家・自治体など></p> <p>中津川市、ジョン・ギャスライト氏(ツリークライミング・ジャパン)、東海シニア自然大学(名古屋市)</p>			
<p><今までに行った調査・研究></p> <p>根の上湿地園、富士見台のササユリ調査</p>			
<p><現在直面している課題></p> <p>指導者の育成、人材。 問題を挙げればきりが無い。問題を乗り越えることを楽しんでいる。</p>			
<p><今後やってみたいこと></p> <p>自分の山を持ちたい。好きに使えるフィールド。恵みを伝える場所が欲しい。</p>			
<p><そのためにはどんな情報・人脈が必要か></p> <p>行政とのつながりも必要だが、受講生たちとのつながりも大切にしたい。</p>			
<p><チームオリジナルの質問></p>			
質問内容:	流域との関わりは?		
答え:	<p>具体的な里山再生も大切だが、都会(下流の名古屋圏)の人たちに楽しんでもらうことがとても大切。短時間で、自分の手で作り上げる。しかも、子どもでもできること。自然の恵みだけで作るクラフトは、大人から子どもまで引き込まれる。</p> <p>人と人のつながり。それが流域との関わり。</p>		

＜その他、伝えたいこと＞

豪快だが、細やかな気遣いと優しさをみせる栗谷本氏。NHKテレビのクラフト講座など、売れっ子クラフト講師である。本人はいたって謙虚で、一人でも多くの人に山の恵みを伝えたい一心で活動している。子どもの頃から野山に親しみ、里山の恵みを頂いて生きてきた栗谷本氏が語る山の話は面白く、多くの人が引き込まれる。にこやかな表情から、自然の素晴らしさを伝える。

氏は、数々の講師をしているが、「自然体験指導者育成プログラム」の講師もしている。ネイチャークラフト作りを指導することは、ネイチャーガイドができるだけの知識がなければ成り立たない。クラフトの材料を集めるときは、できるだけ会場近くの里山で集めるようにしている。このとき、「決して採り過ぎない」と必ず伝えることにしている。基本的に落ちていた葉や実を使うようにしている。落ちていた実でも、それは小動物の貴重な食料であることや、落葉自体も大切な森の宝であることを説く。ネイチャークラフト体験工房は多いが、ここまでフィールドに根ざした活動をしているところは少ないのではないかと。

取材に伺ったのは、恵那市の山間地にあるJAの集会所。そこに集まった受講生は皆、大笑いしながら、クリスマス用のクラフトを作り、満足して帰っていった。

栗谷本氏の名刺には①自然体験塾栗くり工房主宰 ②岐阜県花アドバイザー ③岐阜県里山インストラクター ④ネイチャーネットワーク中津川代表 ⑤NHK教育TV「おしゃれ工房」講師 ⑥NHK教育TV「趣味の園芸」講師 ⑦岐阜県寄せ植華道協会理事 ⑧中津川市観光協会常務理事自然花部会代表 ⑨日本ネイチャーゲーム協会指導員 ⑩(社)日本山岳協会自然保護指導員 とある。全て自然に感謝しながら活動している栗谷本氏の顔である。



栗谷本氏



クラフト教室の様子